

本日、ここに令和元年市議会12月会議が開会されるにあたり、最近の市政の状況と提案いたしました諸議案につきまして、その大要をご説明申し上げます。

はじめに、天皇陛下におかれましては、10月22日、「即位礼正殿の儀」が皇居・宮殿で執り行われ、内外に即位を宣明されました。陛下は、お言葉で、「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられ、改めて敬愛の念を深めたところであり、ここに謹んでお喜び申し上げます。

また、台風19号による被害に配慮され延期されておりましたパレード「祝賀御列の儀」も先月10日に行われ、天皇皇后両陛下は、沿道を埋め尽くした多くの国民の祝意に笑顔で応えられ、広くご即位を披露されました。令和の時代が平穏で希望に満ちあふれますよう願いますとともに、天皇皇后両陛下並びに皇室の一層の弥栄を心からお祈り申し上げます。

次に、10月12日から13日にかけて、関東甲信地方・東北地方を中心に、大きな被害をもたらした台風19号についてであります。

これまでに経験したことのない記録的な大雨により、千曲川や阿武隈川など、71河川において堤防等が決壊し、8万7千棟を超える住宅が被害を受け、90人を超える尊い人命が犠牲となりました。改めて、お亡くなりになられた方々に対し、心よりご冥福をお祈りいたしますとともに、被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。また、一刻も早い復興・復旧をお祈り申し上げます次第であります。

また、千曲川の決壊に伴い、北陸と首都圏を結ぶ大動脈であります北陸新幹線が大きな被害を受け、金沢・東京間の運転再開の目途が立たない状況が続きました。JR東日本、JR西日本が全力で復旧対応に当たり、13日ぶりに暫定ダイヤでの運行が再開し、先月30日には、金沢・東京間の直通運転の本数が被災前の水準に回復をいたしました。この度の浸水被害を受け、多くの方々がその不便さを実感し、

改めて北陸新幹線の重要性を強く認識いたしたところであり、今後の災害への対策強化を十分に図っていただきますようお願いするものであります。

本市におきましては、台風19号の接近に備え、鶴来地域から白山ろく地域にかけ、6箇所の自主避難所を開設し、町内会に対して、明るいうちの早めの避難を周知いたしたところであります。倒木や一部家屋等の被害がありましたが、幸い人的被害はなく、最小限となったものであります。

今なお、被災された自治体におかれましては、全力を挙げて復旧・復興に向け取り組み組んでおられます。

今般、全国市長会及び石川県の要請を受け、台風19号により被災された長野市へ、今月1日から来年3月末までの間、災害ごみの処理業務に当たるため、職員1名を派遣することといたしました。少しでも、被災地の復旧・復興の手助けになればと考えております。

次に、経済情勢等についてであります。

内閣府が、先月発表いたしました7月から9月期の国内総生産GDPの速報では、4期連続のプラス成長となりましたが、実質成長率が前期比0.1%増、年率換算で0.2%増にとどまりました。国は、先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待されるものの、消費税率の引上げによる影響には十分注意するとともに、災害復旧・復興の取組みを加速し、米中貿易摩擦などの下方リスクによる影響に備える必要があるといたしております。

北陸の景気につきましては、日銀金沢支店は、世界景気の減速を背景に、生産用機械や電子部品などで生産水準を引き下げる動きがみられるとし、景気判断を引き下げております。また、北陸の上場企業36社のうち、製造業を中心に9社が中間決算の公表に合わせて、通期の業績予想を下方修正いたしております。市内の上場企業におきましても、そうした動きがありますので、引き続き、注視してまいりたいと考えております。

さて、市民の皆様からご信任を賜り、2期目の市政の舵取りを担わせていただき、

1年が経過いたしました。

1期目と同様、市民の皆様の信頼と期待に応えられるよう、そして何よりも市民の幸せを第一に、誠心誠意、日々全力で取り組んでまいりました。

中でも、「市民も、自然も、まちも、すべてが健康に」との思いから、今年3月、「健康都市 白山」を宣言いたし、健康づくり施策の推進をはじめ、入所児童対策など子育て支援の充実、全小中学校へのエアコン設置など教育環境の充実を図ってまいりました。そして、令和の新たな時代を迎え、「全国住みよさランキング2019」におきまして、本市が初めて全国第1位になるという、うれしい知らせもありました。

企業誘致におきましては、残り1区画となっております山島工業団地の分譲地が完売となり、現在、新たな企業の受皿となる工業団地の整備を着実に進めているところであります。さらに、雇用や定住の受皿ともなる土地区画整理事業も順調に進捗いたしております。

なお、慢性的に渋滞となっております国道8号の6車線化整備につきましては、国の事業として採択がされたところであり、今後の交通環境の改善が図られるとともに、交通事故の減少など安全性の向上につながるものと期待をいたしております。

また、多くの皆様に参加をいただき、全28地区で毎年開催いたしております「まちづくり会議」につきましては、10月27日の加賀野地区をもって、令和元年度の全ての会議を終了いたしました。会議では、健康都市宣言や市民の安全・安心、協働のまちづくりなどを中心に市政報告を行うとともに、地区の課題や各団体の活動を通して気付いた点など、情報共有し、地域の皆様と共に語り合うことができました。まちづくり会議でいただきましたご意見、その熱い思いを、令和2年度予算に反映させてまいりたいと考えております。

引き続き、「対話と参加」による市政運営に邁進し、将来都市像である「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現に向け、なお一層の努力を傾注してまいり所存であります。

それでは、最近の市政の状況についてご説明申し上げます。

はじめに、白山総合車両所等を活用した観光・産業振興についてであります。

去る9月27日に、自由民主党の「新幹線車両所の活用による観光・産業」プロジェクトチームにおきまして、中間とりまとめが行われました。

この中間とりまとめでは、北陸新幹線白山総合車両所の見学者を受け入れ、新幹線の技術と安全性を体感学習できる場として、白山総合車両所に近接した場所にビジターセンターを設置することとし、併せて、多くの子どもたちに鉄道に興味を持ってもらうための屋内遊具施設を併設、さらに、観光案内や物販の機能を備える内容となっております。その上で、建築物の整備は国の支援を受けながら本市が行い、展示物の制作・展示についてはJR西日本が担うこととされ、これらの管理・運営については、建築物を本市が、展示物をJR西日本が担うことを基本とするとされております。

また、(仮称)西松任駅につきましては、行政・運行事業者・利用者によって組織されている白山市地域公共交通協議会を事業主体として進めることとし、開業時期は、利用者の分かりやすさと整備コストの観点から、北陸新幹線敦賀開業に伴う並行在来線分離時点を目指し、関係者が協力して取り組むこととされております。加えて、加賀笠間駅の自由通路と周辺整備につきましても、本市において検討を進めることとされたところであります。

この中間とりまとめにより、構想から実施への段階に移ることとなりますので、本市といたしましても、国、県、JR西日本と、具体化に向け協議を行い、取り組んでまいりたいと考えております。

そうした中、先程申し上げました台風19号の影響により、長野新幹線車両センターで、北陸新幹線の車両10編成が浸水いたしました。JR東日本、JR西日本ともに全てを廃車とする方針ではありますが、この車両を有効活用することを視野に、先般、JR西日本に対して、ビジターセンターでの展示活用を提案いたしましたところであり、JR西日本といたしましては、「現在は台風被害の復旧に全力で取り組んでいる状況であり、車両の活用法を検討する段階にない」との回答でありましたが、今後、適切な時期にJRとの協議を行いたいと考えており、ビジターセンターがより魅力のある施設となるよう努めてまいります。

いずれにいたしましても、白山総合車両所等を活用した観光・産業振興につきましては、新たな地域振興策の実現につながるよう、しっかりと議論・検討を重ねてまいりますので、議員各位におかれましては、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願いするものであります。

次に、SDGsの取組み推進についてであります。

本市と東京大学地域未来社会連携研究機構が平成31年3月に締結いたしました連携協定を記念し、先週の27日、白山市民交流センターはくさんホールで「東京大学と白山市が連携して進めるSDGs」と題して、シンポジウムを開催いたしました。

シンポジウムでは、地域未来社会連携研究機構の松原 宏機構長より、大学内の地域の課題解決に関わる11の部局が連携し、ワークショップやシンポジウムを通じて、様々な交流を進めていく機構の活動を紹介いただくとともに、東京大学の瀬川浩司教授、同大学の佐々木夏来助教より、それぞれ記念講演をいただきました。また、パネルディスカッションでは、講師のお二人に加え、金沢工業大学の平本督太郎SDGs推進センター長、株式会社フォルクの三島由樹代表取締役、NPO法人白山しらみね自然学校の山口 隆理事がパネリストとなり、白山市が取り組むSDGsについて、それぞれの専門的な活動の視点から、活発な討論が行われたところでもあります。

今後も、こうした様々な機会を通じて、大学や民間企業、地域社会など、横の連携を一層深めてまいりたいと考えております。また、身近な生活の中で、私たちができることから行動することがSDGsの目標達成の第一歩になり、そのことが未来につながりますので、引き続き、SDGsの取組みを積極的に推進してまいります。

次に、白山手取川ジオパークの再認定審査についてであります。

10月16日から18日までの3日間、4年に1度の日本ジオパーク再認定に係る現地審査が行われました。白山白川郷ホワイトロードをはじめ、百万貫の岩、白

峰重伝建保存地区、桑島化石壁、獅子吼高原、美川伏流水群など、山から海まで白山手取川ジオパークの広いエリアに分布する見どころをしっかりと説明し、地質遺産の保全と活用の取組みを審査員に確認をいただきました。最終日の講評では、4年前の指摘事項が着実に改善されていることや、各種団体との連携協定など、大変多くの方々がジオパーク活動に関わっていることなどに評価をいただいたところであります。

審査結果は、今月下旬に開かれる日本ジオパーク委員会におきまして、再認定の可否が決定されますので、良い結果を待ちたいと思います。引き続き、市全域で一体となった活動を展開し、ユネスコ世界ジオパークの認定を目指してまいりたいと考えております。

次に、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」についてであります。

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものであります。平成29年4月に認定されました「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」には、これまでに、加賀市、小松市、輪島市、金沢市の県内4市を含む全国45の市町が認定されております。

ご承知のとおり、美川・湊地域の北前船関連文化財も十分、認定に値するものでありますので、11月8日に、認定申請の前提となります北前船日本遺産推進協議会に加盟をいたしたところであり、来年5月の追加認定に向け、準備を進めてまいります。

北前船寄港地として、追加認定がされれば、白山手取川ジオパークとの相乗効果も得られ、観光振興及び地域の活性化につながるものであり、広く発信してまいりたいと考えております。

次に、東京オリンピックに向けた取組みについてであります。

開催まで7カ月余りとなりました東京オリンピック・パラリンピック競技大会におきまして、各競技・種目で出場選手が決まってきている中、本市では、森島町出

身の大学生木島萌香選手が、アーティスティックスイミング競技の日本代表に内定されました。このことは、大変喜ばしく、誇りとするところであり、金メダル獲得を目指し、活躍されることを期待するものであります。

なお、オリンピック出場を目指し、日々努力を重ねている本市出身の有力選手が他にもおられますので、木島選手に続き、朗報が届くことを心より願っております。

また、トランポリン競技のポルトガル代表チームが、11月17日から24日まで、本市で合宿を行い、先月28日から今月1日までの4日間、東京都で開催の世界トランポリン競技選手権大会に出場し、私も応援に行っていました。ポルトガルチームは、健闘され、準決勝まで勝ち進みましたが、残念ながら、今大会での東京オリンピック出場枠の獲得はならなかったところであります。ただ、今後、大きな大会がいくつか残っておりますので、その中で残る出場枠を勝ち取っていただきたいと願っております。

次に、いいとこ白山の魅力発信についてであります。

年明けの1月25日と26日の2日間、東京駅直結のKITTE地下1階東京シティアイにおいて開催いたします観光フェア「いいとこ白山 自然と文化と発酵街道」では、市内5つの蔵元で造られた清酒や食の世界遺産ともいわれるふぐの卵巣の糠漬けをはじめとした発酵食品など、本市の地域産品を販売するほか、白山手取川ジオパークの自然、牛首紬などの伝統工芸品等をプロモーションすることといたしております。

加えて、移住定住支援制度やふるさと納税制度の紹介を通じて本市の魅力を発信するとともに、来場者アンケートにより着地型旅行商品の造成に係る調査を行うことといたしております。

さらには、2月1日は、市制15周年の節目に当たります。これを記念し、2月11日の建国記念の日に、松任文化会館ピーノにおきまして、市民有志180人の特別合唱団が「第九」を声高らかに歌い上げることといたしております。是非、多くの皆様にご来場いただきたいと思っております。

また、3月1日に実施いたします第3回白山検定につきましては、今年度は、「好

きになる！いいとこ白山」「広めたい！いいとこ白山」をキャッチフレーズに、地域について学ぶ楽しみ、そして学んだことを周囲の方々と共有する楽しみを実感していただきたいと考えております。なお、今回から、これまでのコースに加え、入門コースを新設いたしました。この入門コースは、より多くの方々が受験しやすいよう、問題数を減らし、基本的な問題を中心に出题する予定でありますので、多くのチャレンジをお待ちいたしております。

次に、子育て・教育環境の充実についてであります。

土地区画整理事業や宅地開発等による児童数の増加に伴い、これまで、保育施設の増改築や分園の設置、小規模保育所の新設等により、受入体制の整備に努めてきたところであります。特に松任地域と鶴来地域におきましては、今後も、児童の増加が見込まれます。双葉保育所につきましては、既に増築・改修を終え、10月より供用を開始いたしており、千代野保育所、双葉保育所分園、わかば保育園でも、それぞれ増築・改修工事を進めております。

また、本年4月に定員数を増加している乳児保育所におきましても、さらに受入人数を拡充することとし、当該施設の増築・改修費について、今会議に補正予算を計上いたしております。

また、あいわこども園におきましては、入所定員の増員に向けて、施設を増築することに伴い、新たに駐車場用地を確保するための土地購入費について、補正予算を計上いたすものであります。それ以外にも、林中こども園や悠愛保育園などでも、増改築計画があり、新年度に着手する方向で協議を進めているところであります。

また、東明小学校におきましては、来年度、普通教室が不足するため、既存の会議室を普通教室に改修することとし、所要の経費について、今会議に補正予算を計上いたしております。

加えて、東明小学校では、今後も児童の増加が見込まれることから、計画的に必要な教室数を確保するべく、増築・改修等の計画案を議会にお示ししながら、しっかりと対応してまいりたいと考えております。

次に、デジタル防災行政無線戸別受信機の整備についてであります。

戸別受信機は、災害時の避難情報や行政情報を各世帯へ伝達するとともに、町内会等の地域コミュニティでの情報共有としても、大きな役割を担うものであり、美川地域と白山ろく地域では、既に戸別受信機の配備を終えております。

今年度から2カ年で整備することとしております松任地域と鶴来地域につきましては、現在、町内会や地区ごとに説明会を開催しているところであります。説明会を終えた町内会から、早ければ来年1月より順次配付を予定いたしており、令和2年度末までには、松任・鶴来全域での配備を終えたいと考えております。これにより、市内全域で統一した環境が整うものであります。

近年は全国各地で自然災害が相次ぎ発生いたしており、防災情報は一層大切となっております。今後とも、市民の皆様に、迅速かつ的確な情報をお伝えするとともに、早めの行動を促し、市民の皆様の安全・安心の確保に努めてまいります。

さて、今年も余すところあと一月となりました。

3カ月予報では、この冬は全国的に暖冬傾向となっておりますが、道路除雪につきましては、万全の準備を整え、気を引き締めて対応をしてまいります。除雪体制につきましては、除雪委託業者124社、除雪機械246台で作業を行うことといたしており、昨年と同様に、除雪対象路線を第1次路線、第2次路線、第3次路線として指定し、計画的に順次実施することにより、円滑な交通の確保に努めてまいります。なお、除雪作業にあたっては、最新の気象情報を注視しながら、国、県等の関係機関と連携し、市民の生活に支障が出ないように努めてまいります。市内全ての道路を除雪することは困難であります。町内の生活道路や自宅周辺などの除雪につきましては、これまでどおり地域ぐるみの対応とご協力をお願いするものであります。

次に、白山千丈温泉セイモアスキー場と白山一里野温泉スキー場ではありますが、ともに今月21日にオープンの予定であります。

特に、白山一里野温泉スキー場につきましては、本年3月より整備を進めており

ましたリフトの架け替え工事が、今月の中旬に完了いたします。のだらゲレンデの頂上を終点とするトリプルリフトの完成により、輸送力と利便性が大幅に向上するものであります。

また、初心者用のゲレンデには、初めての方々でも安心してスキーに挑戦できるよう、スノーエスカレーター「ムービングベルト」が、今シーズンより設置されます。親子連れをはじめ、多くの皆様にスキー場を訪れていただき、雪に触れ、この冬を楽しんでいただきたいと思います。

次に、令和2年度の予算編成についてであります。

新年度におきましては、第2次白山市総合計画の基本理念「健康」「笑顔」「元気」を基本とする各事業を着実に前進させるため、限られた財源の中、予算の重点的・効率的な配分に努めるとともに、「健康都市 白山」の宣言やSDGsの推進、市民協働のまちづくり、安全・安心な環境づくりを念頭に、創意と工夫を凝らしたメリハリのある予算編成を行ってまいりたいと考えております。

その中でも、本市の自然・歴史・文化など、多様で魅力ある資源を最大限に活用し、市民の皆様が100歳になっても元気に暮らせる、住んで良かったと実感できる白山市づくりに努めてまいります。

それでは、提案いたしました諸議案について、ご説明申し上げます。

提出案件は、補正予算案8件、条例案5件、事件処分案6件の計19件であります。

はじめに、議案第88号から第95号までの令和元年度補正予算案についてであります。

まず、一般会計につきましては、補正予算総額5億6,100万円余となるものであります。その主なものといたしましては、総務費では、定住促進奨励金に不足が生じるため追加補正を行うものであり、また、民生費では、子育て支援医療給付金及び法人保育園運営費補助金などに不足が生じるため追加補正を行うほか、乳児

保育所の増築・改修に伴う実施設計費を計上いたしております。加えて、当該乳児保育所の増築・改修工事費等について並びに鶴来老人福祉センター蓬莱荘の建築工事費等について債務負担行為の設定を行うものであります。さらに、あいわこども園の入所定員の増員に向けた施設増築に伴い、新たに駐車場用地を確保するための土地購入費を計上いたしております。また、農林水産業費では、環境保全型農業支援対策事業費補助金及び野生イノシシの豚コレラ感染の確認に伴い、ジビエ利用を自粛していることから、捕獲されたイノシシの回収に係る対策費の補助金をそれぞれ計上するものであり、土木費では、木造住宅の耐震改修工事費補助金及びブロック塀撤去費補助金の増額を補正計上いたしております。また、教育費では、要保護・準要保護児童・生徒就学援助費などに不足が生じたため追加補正を行うほか、東明小学校において、児童数の増加に対応するため、改修に係る所要の経費を計上いたしております。なお、人件費の補正につきましては、石川県人事委員会の勧告に準拠し、給与改定を行うものであります。

次に、特別会計及び事業会計につきましては、一般会計同様、給与改定に伴う人件費について補正を行うとともに、国民健康保険特別会計において、保険給付費交付金等の返還金を計上いたしております。また、工業団地造成事業特別会計につきましては、山島工業団地分譲地の土地売却収入を基金に積み立てるほか、新工業団地造成に伴い、アクセス道路の整備に係る交通量調査、基本設計費等を計上するものであります。

次に、議案第96号から第100号までの条例案について、その主なものをご説明申し上げます。

「白山市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例」につきましては、令和元年石川県人事委員会勧告に準拠し、関係規定を改正するものであり、「白山市ふるさと館条例の一部を改正する条例」につきましては、現在、大規模改修工事を行っている松任ふるさと館の施設使用料を改正するものであります。また、「白山市公営企業の設置等に関する条例等の一部を改正する条例」につきましては、特

別会計で運営している白山ろく地域の簡易水道事業について、地方公営企業法を適用することとして、公営企業会計へ移行し、併せて、白山ろく地域の水道料金の改定を行うため、関係条例の一部改正及び廃止を行うものであります。

次に、議案第101号から第106号までの事件処分案について、ご説明申し上げます。

「市道路線の変更」につきましては、道路法の規定に基づき、道路整備に伴う路線について、議会の議決を求めるものであり、また、「指定管理者の指定」につきましては、地方自治法の規定に基づき、施設の指定管理者となる団体の名称及び指定の期間について、議決を求めるものであります。また、「損害賠償の額を定めること」につきましては、地方自治法の規定に基づき、二曲城跡において発生した倒木による物置の損壊事故について、損害賠償の額を定めるため、議決を求めるものであります。

以上をもちまして、12月会議に提出いたしました議案の説明を終わりますが、何卒慎重にご審議の上、適切なるご決議を賜りますようお願いいたします。